

## のぞき枠

ビルの谷間にオレンジ色に  
やけに軽くて薄べらな  
涼しい円板が吊り下がっている

食べてみたそうに幼児は<sup>おさなご</sup>  
ぼかんと指をくわえている

歩行者天国に人の溢れ  
ゆっくりとした流れ、長い影は様々  
僕はその中のテーブルで  
静かに座ってコーラを飲んで  
寂しい淀み、エアーポケット

じっと見つめる紙コップの赤さ  
これだけが僕の映像

<sup>からだ</sup>身体のだるさが枠を縮める

ふいと空のコップをトンと置き  
腰を上げて、もう帰ろう・・・

僕は後ろ向きに歩き出す  
はじめはただの紙コップ  
次いでテーブル、棄てられて  
誰も座らぬ白い椅子  
小さな枠はそのまま小さい

さらに夕日を背にして後じさり  
テーブルの傍を人は通り過ぎる  
銀座通りは何処までも真っ直ぐ  
小さな枠に大きな雑踏  
高いビルも仲間入り

ビルの谷間にオレンジ色に  
やけに軽くて薄べらな  
涼しい円板、見下ろして  
イルミネーションも灯ります  
ぼんやりした人々の群れは流れる

きびすを返して前に歩き出し  
気に懸かるのはあの紙コップ  
白いテーブル、白い椅子  
ぽつんと流れの中に淀んで  
きっと思い出浮かべているだろう

(1982.5.12)